
ひとつひとりより泣き虫で。

七浦彩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとつひとつより泣き虫で。

【Zコード】

N5144A

【作者名】

七浦彩

【あらすじ】

いきなり泣いて帰ってきた息子。

一つ不思議と負けず嫌い。

三つみんなに嫌われて。

四つ横顔膨れ顔……

「どうしたんだ」

俺の聞いには答へずに、そいつはフンとやつほを向いた。やっぱ
りいつもの膨れ顔。笑った顔をそういうや最近見ない。

「……んじゃない」

ああその声には覚えがあるぞ。泣きそうだから、言葉にすると涙
が出そだから、でも答えないと怪しまれるから、必死で搾り出す
よつなそんな声。

「ういう時はほつほつとおぐが一番。俺は煙草に火をつけて、そ
いつが座つたブランコの隣に座つた。できるだけ顔を覗き込まない
よつに」。

ぱづ、ぱづ、ぱづ、と煙が立ち昇る。丸っこくしてみる。ふうつ
と細く吹き出してみる。青い色に搔き消されて、煙はいつしか消え
てしまう。

それを見てるだけでもいいもんだ。泣きたい時は泣くがいい。俺
がこいつに教えたのはそれだけ。

ぐず、ぐず、と鼻をすする音が聞こえる。

さでどうしたもんかねえ。ほつほつと空高く昇る煙が、いきなり
魔法みたく色んな形になつたら泣き止ませてやれるかね？
けれど自分で立ちあがれ。お前はそんなにヤツじやないはずだ。

俺がそいつは保証するよ。

さうつと、ブランコから離れて、ふうつと煙草の煙を吹きかけて
やる。うえ、と呟んで、そいつはげほげほ言こ出した。

「何しやがんだっクソオヤジ!」

「はい、クソオヤジです」

「ふふう、と田に煙を直撃せしる。家内に^{あいつ}や怒られるが、見られてなければ別にいい。

その丸っこくて、どうにも俺に似てる、似すぎていて正直困っている、俺のガキは、煙に涙を流した。しまいにやそれが元になつて、ぼろぼろぼろ泣き出しあがる。

「お前にはどうせわかんねえだろつ」

「わかんねえなあ、言つてくれなきやなあ」

「五組の佐々木のことなんか知らねエだろ!」

「あン、佐々木がどした」

「あいつ、あい、あいつ」

びええ、と泣き出して鼻水出して抱きついてくるガキンちゃんは、それでも力だけはあつて、腹にぽすんと重たい一撃を残した。

寝癖が頭のてっぺんにぴょこんとしてて、泣き方も、わけのわからぬ言い訳も、全て俺にそつくりそのままで、俺は苦笑しながら空を見やつた。

五ついつでも俺だけは。

お前の味方でいてやるよ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5144a/>

ひとつひとつより泣き虫で。

2010年11月9日06時26分発行